慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	發刊の辭
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1921
Jtitle	史学 Vol.1, No.1 (1921. 10)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19211000--004

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

發刊の辭

歴史研究が學問たりうることはもはや問題ではない。われらは更に歴史と人生との深き關係を洞察せねばならぬ。現實のわれはわれ獨自に生存するのではなく、ひろき社會のうちに、遠き歴史の背景をもつて生活するのである。この時空、及び自他の關係をたゞしく知ることによつて、はじめてまことの生命に生きることができる。而してそれを知る一方法を、われらは歴史研究にもとめんとするのである。

おのれを知ることが生活の眞諦であるけれども、おのれを知つて、そのおのれにとどまり得ようか。われらはありしおのれを知つて、さらにあるべきおのれに目醒めねばならぬ。けれどもあるべきおのれの目醒は、ありしおのれをたゞしく知つてのみはじめて可能である。底つ岩根に宮柱太しり、高まの原にひ木たかしるとは、現實の窮盡と理想の追求とに生きる精神をいふのであつて、われらは不斷の創造に理想の實現を期せんとする。この理想にたゞしき進路を指示することが、歴史研究の當然の任務である。

思想界の混亂きはまりなきときにあたつて、われらは特に、人と人と、國と國との關係を、及び全人類のあゆみゆくすがたをたゞしく知ることが、そしてそれによつて祖先の生命をわが内心に攝取しうることが、われらの絶大の歡喜であるとともに、人生に對する責務なることを痛感する。われらの研究と批判とは、あくまでこの責務遂行のためであらねばならぬ。雜誌『史學』のうまれる所以はここにある。

一九二一年十月